

22 透析指導における家族看護の重要性を学んだ一例

ほのぼの透析クリニック

看護部：有賀ゆみ子 河西加代 小林充 前田美和

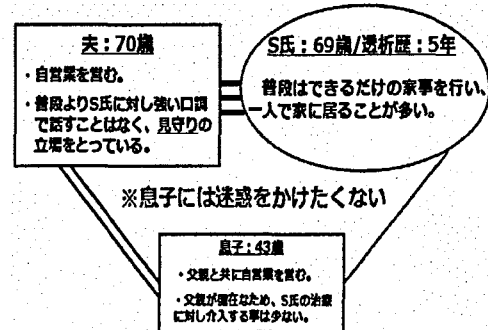
1. はじめに

透析指導を行なう過程の中で、私たちはしばしば家族を含めた指導形態をとる。それは家族が個人の健康管理に大きな影響を及ぼすとともに、個人の健康が家族全体にも大きな影響を与える相互関係にあるからである。しかし安易な家族への指導は、時に混乱や家族内の悪循環パターンを起こしかねない。

今回、降圧剤を使用しているにもかかわらず高血圧が全く改善されない高齢の方の内服指導での一場面を、カルガリー家族アセスメントモデルにて振り返り、家族看護の重要性について学ぶ事ができたのでここに報告する。

2. 患者紹介及び家族構成

S氏、69歳 女性 透析歴5年。普段はできる限りの家事を行い、一人で家にいることが多い。夫は70歳で自営業を息子と営んでいる。普段よりS氏に対し強い口調で話すことはなく、見守りの立場をとっている。夫婦そろって息子に迷惑をかけたたくないという想いが強く、息子がS氏の治療に介入する事はあまりみられない。



3. 倫理的配慮

本研究は研究対象者及びその家族に説明し、同意を得ている。また、研究対象者とその家族に研究の参加の有無によって不利益が生じない事を加えて説明した。

4. 看護の実際

1) 治療経過

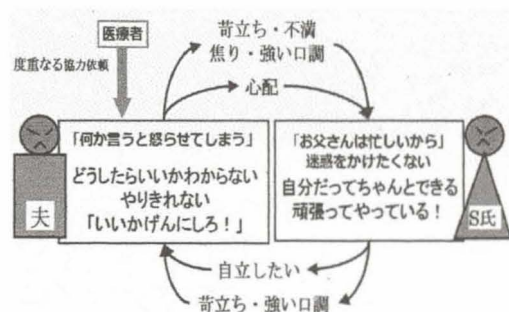
2007年3月内服薬の紛失があり薬の一包化を行なう。その際夫に内服管理の協力を依頼した。高血圧が続き、6月・8月と降圧剤の追加をするが、9月に内服できていないことがわかり、再度2回にわたり内服管理の依頼を行なう。10月にはさらに内服薬の紛失のため14日分処方に変更した。

そして10月20日 残薬確認にて内服状況がバラバラであり、「飲んだか飲まないかわからなくなる」「お父さんにいい加減にしろと言われる」との発言が聞かれた。表情は硬く、気分が落ち込んでいた。

2) アセスメント

根本的に夫婦の間には相手を思いやる気持ちがあり、自立した関係を望んでいる。

今回私達は、内服管理の方法として薬剤カレンダーの使用など一般的な提案を行なったが、そのことが夫にとって過度のストレスとなった。それにより不満や苛立ちを S 氏に向ける事になり、S 氏は余計に強い口調で返答するという悪循環パターンが作られてしまった。そのため、内服管理を行なおうとすればするほど夫婦間のストレスが増加し管理しづらくなる状況となっていたと考えられる。



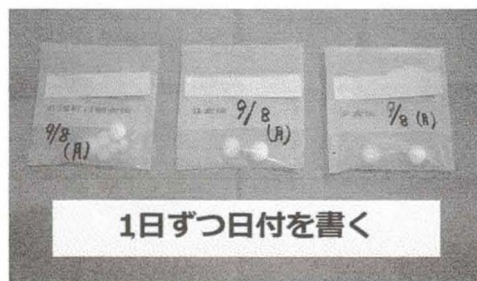
3) 介入方法

内服薬の管理方法を見直し、夫にも S 氏にも判りやすい様工夫した。

処方された 14 日分の内服薬を、1 日ずつ日付を入れてその日 1 日分のまとまりを作った。それを箱に日付順番に入れ渡した。

そして本人と夫に毎日その日の薬を出して見るところに置き、二人で管理してもらいたいと説明した。

飲む事ができなかった分を次の内服薬を組む際確認し、飲めない薬があってもそのことに対するの非難はしないようにした。



1日ずつ日付を書く



1日分のまとまりを作る



箱に日付順番で入れる

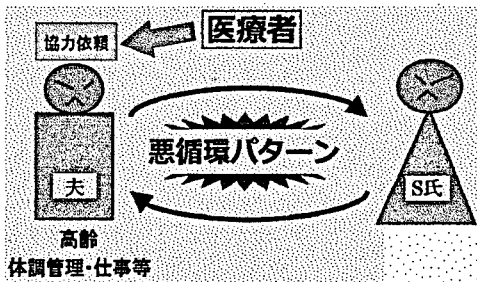
4) 結果

内服薬の飲み忘れが 14 日のうち 3 回ほどあるもののほぼ内服できる状況が続き、高血圧が改善され、現在は 1 種類の降圧剤の内服にまで減量できた。

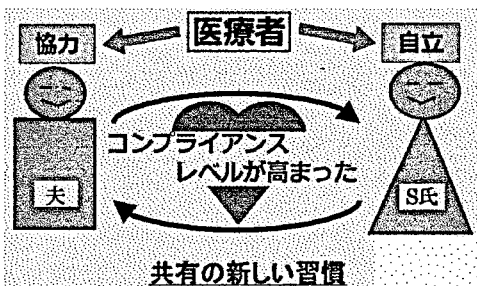
夫からは「まだ飲めない時もあるけど、なんとかやってる」、S 氏からは「お父さんにこれいいんだっけ？なんて確認しながら飲んで」と、笑顔で話を伺うことができた。

5. 考察

日本において家族の誰か一人に介護負担の重圧がかかる傾向にあり、S氏夫婦も例外ではない。夫は健常ではあるが70歳と高齢で、自分自身の体調管理・仕事など、精神面の余裕がない状態であったと考えられる。医療者からの依頼は夫にとってストレスとなり、家族内の悪循環パターンを引き起こす要因となっていた。



今回内服薬の管理方法を見直したことにより、S氏と家族に共有できる新しい習慣を作り出す事ができた。このことはS氏の自立心を損なう事なく、夫が無理せず薬剤管理を行なえる状況を可能にした。これは家族の自己調整能力が発揮された一例で、環境を整えたことにより、患者側・家族側双方のコンプライアンスレベルが高まったと考えられる。



6. 結語

長い透析治療には家族の協力が不可欠になる。社会全体の高齢化が進み、さらに高齢者の核家族化も増大傾向にある今、私たちは患者自身にも家族にも、できる限り少ない負担で自己管理が行なえるよう援助していく必要がある。そのために家族看護の技術の習得に努めなくてはならない。

参考文献

森山美知子：ファミリーナーシングプラクティス
医学書院 第1版第6刷 2006